

南極昭和基地での宇宙線観測による宇宙天気研究

Cosmic ray observations at Syowa Station in Antarctica for space weather study

*宗像 一起¹、加藤 千尋¹、内田 悟¹、海見 走¹、門倉 昭²、片岡 龍峰²、Evenson Paul³

*Kazuoki Munakata¹, Chihiro Kato¹, Satoru Uchida¹, Sou Kaimi¹, Akira Kadokura², Ryuho Kataoka², Paul Evenson³

1. 信州大学理学部物理科学科、2. 国立極地研究所、3. デラウェア大学バルトール研究所

1. Department of Physics, Faculty of Science, Shinshu University, 2. National Institute of Polar Research, 3. Bartol Research Institute, University of Delaware

国立極地研の共同研究により、南極昭和基地における中性子モニターとミュオン計を用いた新宇宙線観測が2018年2月から開始した。本講演ではこの新観測データの初期解析結果を報告する。また、GMDN (Global Muon Detector Network) が観測した2015年6月の「宇宙線バースト」現象を解析し、この現象を最初に報告したインドの巨大ミュオン計 (GRAPES-3) による結果との比較を通じて、グローバルなネットワーク観測の重要性を強調する予定である。

キーワード：宇宙線観測による宇宙天気研究、南極昭和基地における宇宙線観測、汎世界的ネットワーク観測

Keywords: Space weather study using cosmic ray observations, Cosmic ray observations at Syowa, Antarctica, Global network observations